

# 第1期吹田市障がい児福祉計画 評価・管理シート

児童部  
子育て政策室

# 目次

## 第1期吹田市障がい児福祉計画 評価・管理シート

成果目標	障がい児支援の提供体制の整備等	・・・1
活動指標	通所系サービス、訪問系サービス、相談支援、その他	・・・2
重点課題1	療育を必要とする児童の早期発見に向けた取組の推進	・・・3
重点課題2	乳幼児期から就学後まで、ライフステージに応じた切れ目のない支援の提供	
重点課題3	医療的ケアが必要な児童の地域支援	・・・4
重点課題4	児童の発達支援や家族への支援を一体的に提供する相談支援体制の充実・強化	

成果目標 (Plan)	障がい児支援の提供体制の整備等	
(1) 目標値と考え方		
① 児童発達支援センターの設置 平成29年度実績 設置済	保育所等訪問支援を併設し、設置	令和2年度目標 1か所
① 保育所等訪問支援の充実 平成29年度実績 3か所	さらに1か所の設置を目指す	令和2年度目標値 4か所
② 主に重症心身障害児を支援する児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所の確保 平成29年度実績 3か所	さらに1か所の設置を目指す	令和2年度目標値 4か所
③ 医療的ケア児のための保健・医療・障がい福祉・保育・教育等の関係機関の協議の場の設置 平成29年度実績 吹田市域療育等関係機関連絡会での実績有	基盤を整備する	平成30年度までに設置
(2) 進捗状況 (Do)		
①児童発達支援センター 設置済 保育所等訪問支援 3か所 ②主に重症心身障害児を支援する児童発達支援事業所 3か所 主に重症心身障害児を支援する放課後等デイサービス事業所 設置済 ③医療的ケア児のための協議の場 設置済		
(3) 評価 (Check) 主に重症心身障がい児を支援する放課後等デイサービス事業所については、令和元年度に1事業所増え目標値に達したものの、保育所等訪問支援及び主に重症心身障害児を支援する児童発達支援事業所は、目標値に達していません。	達成度※ B	
(4) 今後の方向性 (Action)		
保育所等訪問支援及び主に重症心身障害児を支援する児童発達支援事業所の設置について、施設整備補助事業を活用できることを含め、吹田市障がい児支援事業者等連絡会において周知を図るなど、引き続き障がい児支援の提供体制の整備に努めてまいります。		

※「A」目標を達成した 「B」目標の達成に向けて進展があった 「C」目標の達成に向けて進展が見られなかった

第1期吹田市障がい児福祉計画評価・管理シート

活動指標

・通所系サービス（月当たり利用者数、利用量）

			平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)
児童発達支援	利用者数 (人)	見込量	373	448	537
		実績	534	637	
	利用量 (人日)	見込量	3,210	3,852	4,622
		実績	3,444	3,994	
医療型児童発達支援	利用者数 (人)	見込量	63	66	69
		実績	64	59	
	利用量 (人日)	見込量	742	779	818
		実績	728	689	
放課後等デイサービス	利用者数 (人)	見込量	1,024	1,228	1,474
		実績	1,124	1,364	
	利用量 (人日)	見込量	7,738	9,285	11,142
		実績	7,633	8,908	

・訪問系サービス（月当たり訪問回数）

			平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)
保育所等訪問支援	訪問回数 (回)	見込量	5	7	10
		実績	9	15	
居宅訪問型児童発達支援	訪問回数 (回)	見込量	3	5	8
		実績	0	5	

・相談支援（月当たり利用者数）

			平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)
障がい児相談支援	利用者数 (回)	見込量	150	170	200
		実績	213	288	

・その他

医療的ケア児に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターの配置人数	吹田市域療育等関係機関連絡会において医療的ケア児支援のための協議を行うとともに、平成30年度末までに、関連分野の支援を調整するコーディネーターを少なくとも1名配置します。	(実績) 令和元年度に協議の場を設置し、大阪府の研修を修了したコーディネーター1名を配置しました。
-------------------------------------	---	--

重点課題

◎ 重点課題 1

療育を必要とする児童の早期発見に向けた取組の推進

(検討項目)

- ・乳児後期（生後10か月頃）を対象とした親子教室の実施
- ・子育て支援コンシェルジュ事業との連携強化
- ・吹田市域療育等関係機関連絡会の有機的な連携

(進捗状況)	評価 (Check)	達成度※	今後の方向性 (Action)
<p>乳児後期（生後10か月頃）を対象とした親子教室に、12組の利用がありました。</p> <p>子育て世代を取り巻く現状や支援情報の共有、課題の解決に向けた検討を行うネウボラ連携会議において、支援が必要な親子の情報を共有するなど、連携が図れています。</p>	<p>乳児期親子教室において、子育ての不安に寄り添いつつ、リハビリ専門職との連携により運動面での成長に成果がありました。</p> <p>ネウボラ連携会議構成機関とともに出張相談会を実施しました。</p>	<p>A</p>	<p>早期発見による支援や出張相談会のような地域支援が、さらに継続した次の支援につながるよう、取組みを推進します。</p>

※「A」目標を達成した 「B」目標の達成に向けて進展があった 「C」目標の達成に向けて進展が見られなかった

◎ 重点課題 2

乳幼児期から就学後まで、ライフステージに応じた切れ目のない支援の提供

(検討項目)

- ・就園・就学児童を対象とした親子教室の充実
- ・児童の成長記録や支援記録等を記載したファイルの活用
- ・保護者を対象とした学習会や支援体制の充実
- ・教育委員会及び吹田市障がい児支援事業者等連絡会等との連携強化

(進捗状況)	評価 (Check)	達成度※	今後の方向性 (Action)
<p>就園児対象の親子教室を実施、68組の利用があり、療育、就園指導及び支援を行いました。</p> <p>就学後の児童を対象とした教室を実施、36組の利用があり、主にコミュニケーションの向上に向けた支援を行いました。</p> <p>支援ファイル（発達支援手帳すいすいのと）については、ホームページ等で周知を図り、利用を促進しています。</p> <p>発達相談における学校連携は221件ありました。</p>	<p>就園児童を対象とした親子教室においては、親子への支援だけでなく、在籍する園との連携を通して、園生活への適応の促進に成果がありました。</p> <p>学校連携の件数は前年度と大きく変わりませんが、機関連携を通して家庭への支援の促進を図りました。</p>	<p>A</p>	<p>教育委員会との支援の分担を明確にしつつ、更なる連携を促進します。</p> <p>子どもの支援や対処法を学ぶ保護者対象のペアレントプログラムを実施していきます。</p>

※「A」目標を達成した 「B」目標の達成に向けて進展があった 「C」目標の達成に向けて進展が見られなかった

◎ 重点課題 3

医療的ケアが必要な児童の地域支援

(検討項目)

- ・医療的ケア児に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターの配置
- ・医療的ケア児の通所支援、訪問型支援の充実

（進捗状況）	評価（Check）	達成度※	今後の方向性（Action）
わかたけ園の職員が、大阪府が主催する医療的ケア児等コーディネーター養成研修を修了し、資格を取得しました。そのコーディネーターを配置した吹田市域療育等関係機関連絡会において、吹田全体の医療的ケア児の状況を共有しています。	医療的ケア児に対する支援を調整するコーディネーターについては、関係機関との役割分担を整理し、周知する必要があります。	B	コーディネーターの配置を周知し、具体的な支援を行います。また、通所支援、訪問型支援の充実について、吹田市域療育等関係機関連絡会において、協議の場を設け、課題の検討を進め、地域支援を促進します。

※「A」目標を達成した 「B」目標の達成に向けて進展があった 「C」目標の達成に向けて進展が見られなかった

◎ 重点課題 4

児童の発達支援や家族への支援を一体的に提供する相談支援体制の充実・強化

(検討項目)

- ・相談支援事業者のコーディネーター機能強化に向けた研修、啓発
- ・新たな相談支援事業者の参入促進
- ・吹田市療育等関係機関連絡会及び吹田市障がい児支援事業者等連絡会との連携強化

（進捗状況）	評価（Check）	達成度※	今後の方向性（Action）
相談支援事業の実施状況は、令和2年3月現在で、支給決定対象児童に対し6割となっています。 令和元年度から市障がい児支援事業者等連絡会の運営会議に、杉の子学園及びわかたけ園の代表者が参加し、同連絡会との連携強化を図りました。	相談支援事業者のコーディネーター機能強化に向けた研修については、市障がい児者計画相談支援事業者連絡会と連携する必要があります。	B	市障がい児者計画相談支援事業者連絡会と連携し、研修の実施、関係機関への啓発等、コーディネーター機能強化を促進します。 また、市療育支援システムにおいて、相談支援専門員の役割を位置づけ、官民共同による障がい児支援を推進します。

※「A」目標を達成した 「B」目標の達成に向けて進展があった 「C」目標の達成に向けて進展が見られなかった